

所期の志に立ち返り、

使命を全うする

公益社団法人 東京ビルメンテナンス協会 会長 佐々木 浩二

新年、明けましておめでとうございませす。

さて、昨年は元日早々能登地方を震源とする大地震が発生し、正月気分の日列島を震撼させました。人的被害1800人余り、住家被害は13万9千戸余りを数えます。その復旧・復興が道半ばの9月、今度は能登半島を豪雨が襲い、再度多大



な被害が生じました。自然の猛威を前に人間の無力さを痛感した一年でした。

海外に目を転ずれば、ウクライナ侵攻は3年目を迎え、イスラエルとハマスの紛争は周辺国に拡大、多くの人命が失われており、出口が見えません。エネルギー価格をはじめとした諸物価の高騰など、わが国及び当業界への影響も続いています。昨年暮れの日本被団協のノーベル平和賞受賞が、数少ない明るい話題となりました。

こうした中、昨年はコロナ禍の収束に伴い、講習会やセミナーなど東京ビルメンテナンス協会の根幹をなす公益事業や野球大会などの文化スポーツ親睦事業を完全に通常の状態を実施することができました。障害者の法定雇用率が引き上げられる中、社会貢献事業である障がい者

の自立支援に向けたセミナーでは、現に働いている障がい者の方々にも登壇していただき、好評を得ることができました。また、優良従業員表彰式、ビルメンテナンspfエア、労働安全衛生大会などの重要な行事についても、以前の活況を取り戻すことができました。

会員の皆様はじめ、日頃ご指導・ご支援いただいた行政機関、関係団体、関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、改めてビルメンテナンスに関する知識・技術の向上とビルメンテナンspf業の健全な育成という所期の志に立ち返ることの重要性をかみしめています。

折しも政府は官公庁契約において、最低賃金額の改定や物価高騰等に伴うビルメンテナンspf契約の改定を促す通知を相次いで発出するなどの動きを見せています。当業界が社会に広く認知された今日、私たち自身もその地位にふさわしい質の高いサービスを提供し、都民生活の向上と公共の福祉への寄与という使命を着実に果たして参る決意です。

令和7年が皆様にとってより良い1年となることを心から祈念いたしました。年頭の挨拶とさせていただきます。